

やましんかわら版は
山新販売店と読者を結び
ミニコミ紙です

やましんかわら版

発行部数 9万7,000部

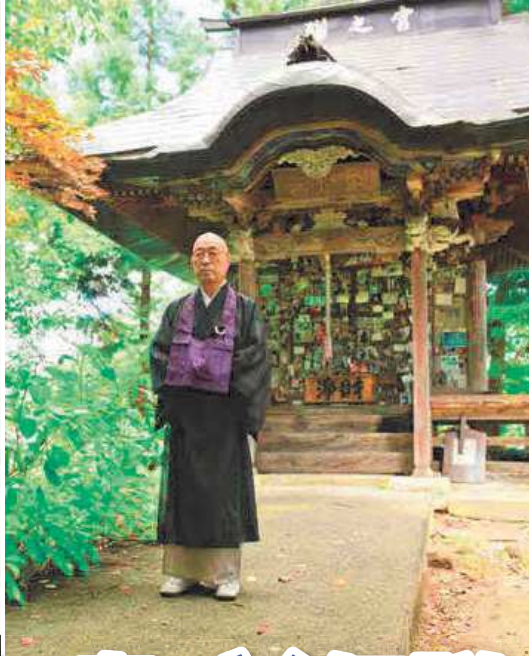
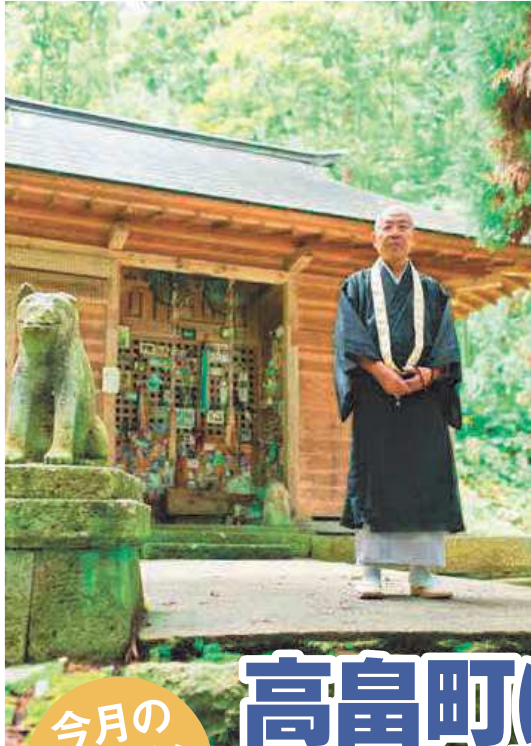
毎月5日発行

新聞休刊日のため9月10日(月)付朝刊はお休みさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。



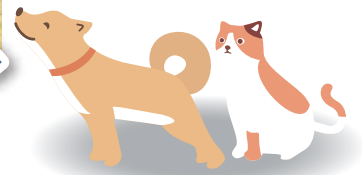
かわら版編集部

〒990-2323 山形市桜田東二丁目3-8-7
《ホームページ》<http://www.yamashinhanbai.jp/>
《メール》kawaraban@yamashinhanbai.jp
読者お問い合わせ窓口
TEL.023-635-6111 (山新販売内)



今月の
いちばん
情報!!

高島町に息づく伝説、 忠犬、忠猫を祭る宮。



動物をお祭りする神社は日本各地に存在しますが、高島町の高安のように、犬と猫をそれぞれ祭る社が、隣り合って建っているところは日本全国を探しても他にありません。そこでは化け狸から村を救った忠犬、そして主人を悪霊から救った忠猫をお祭りしており、現在は愛犬・愛猫の供養と健康祈願を目的とした参拝者が多いスポットとなっています。今月は、犬の宮こと林照院大高典道住職、猫の宮こと清松院村上正法住職に、この不思議な宮の言い伝えについて伺いました。

Q、犬の宮、猫の宮の言い伝えについて。

▶時代背景は平城京があった時代、犬の宮は和銅年間(708年～)、猫の宮は延暦年間(782年～)の頃に建てられたとされています。言い伝えでは当時この辺りは、近隣の町、ましてや都とは縁のない集落だったそうで、それなのに突然、都からきたという役人が現れて「女子が11歳になつたら、宮遣いに差し出せ」と人年貢を徴収す

るようになったというのです。その役人こそ、狸の化身でした。

数年後、化け狸は甲斐の国(今でいう山梨県の辺り)から連れてきた三毛犬、四毛犬によって退治されましたが、その戦いで2匹の犬たちも命を落とすこととなります。村人たちは、命を賭して村を救ってくれた犬たちを祭るため犬の宮を建てました。その後、化け狸は悪霊となり、再び村にやってくるのですが、今度は猫が観音菩薩のお導きにより現れ、またも撃退するのです。そして、その猫を祭るために、猫の宮が建てられました。

つまり、言い伝えにある集落は、数十年の間に2回、犬と猫というとても身近な動物に救われたのです。

Q、とても不思議なお話ですね。

▶現代に生きる私たちにとって、1000年以上も前のことなんて分かるはずありませんが、私たちなりにその言い伝えについて想像を膨らませています。例えば犬は、その強い繁殖力のため、

子孫繁栄の象徴とされる動物です。また猫は、養蚕が盛んだった時代には、害獣から蚕を守る役目もありました。そのことから地方の集落ではありがたがられ、祭る対象にもなりやすかったのかも知れません。言い伝えが事実かどうかは別として、この犬の宮と猫の宮は、当時の村人たちの祈りの対象だったのでしょう。

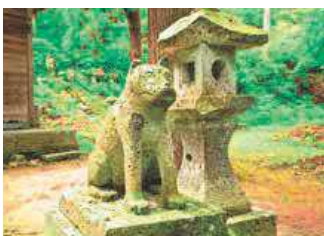
ここで、一つ面白い話があります。昭和初期まで高島町には『高安犬物語』(動物作家:戸川幸夫氏)にある、『高安犬』という狩猟犬が存在していました。高安犬のルーツは甲斐犬だとされ、一説には化け狸退治で死んだとされた犬のどちらか一方の子孫なのではないかと言われているのです。絶滅してしまいましたから調べることはできませんが、もしそうなら、言い伝えもさらに真実味を増すのではないのでしょうか。

Q、なにがロマンを感じてしまいます。

▶山形の、夏の終わりの不思議な話として、読んでいただければと思います。ただ、私たちがここで宮を営むことは事実で、その宮は1000年以上の歴史を持ち、今も多くの参拝客の皆さんを迎えています。愛犬家・愛猫家の方がいらっしゃれば、毎年7月には供養祭を行いますので、ぜひ、犬の宮・猫の宮に足を運んでいただければ幸いです。

犬の宮・猫の宮

住所／高島町高安910辺り



左／モデルは高安犬とされる、犬の宮の狛犬。その片耳が破壊されています。くれぐれもそのようなことはなさぬようこの場を借りてお願いします。

右／愛猫や愛犬を思う飼い主たちが、多くの思い出の品をお供えしていくとのことです。供養祭では一斉にお炊き上げするので、そちらでのご参拝がおすすです。